

彦根城博物館所蔵『琴用指法』

——日本伝存の七弦琴手法書に関する一考察——

An Old Manuscript of *Kin'yōshihō* (*Qinyongzhifa*) in the Hikone Castle Museum

:A study on an old manual describing the technical skills required to play the *qin*, a Chinese seven-string zither

山寺美紀子

YAMADERA Mikiko

本稿は彦根城博物館蔵『琴用指法』(調査番号 V633, 目録名『琴用指弾法』, 卷子装一卷, 30.2 cm×408.5 cm, 紙本墨書に朱書あり。彦根城本と略す)を紹介し, 本書が『琴用指法』の最古の伝本(後水尾本)であることを示すとともに, 近代以降不明とされていたこの書の伝来の経緯を調査, 報告するものである。

『琴用指法』は中国古来の撥弦楽器, ^{きん}琴 (七弦琴・古^{しちげんきん}琴) の演奏指法を記した手法書で, 隋唐以前の奏法を伝える稀書として知られる。

『琴用指法』後水尾本は日本に伝存し, 同じく日本に伝存する世界最古の^{きん}琴の楽譜『碣石調幽蘭第五』(現在東京国立博物館蔵)と共に, 後水尾天皇(1596-1680)が楽家の狛氏に下賜したといわれる。狛家所蔵時には, 荻生徂徠(1666-1728)が本書の内容を抜粋, 整理し, 写本「荻生徂徠編著幽蘭譜」に収載したが, この後水尾本のその後の消息は不明である。これまで『琴用指法』は, 1942年に林謙三により現存が報告された影写本(吉川本)及び「荻生徂徠編著幽蘭譜」を通してその内容が知られ, 日中両国において, 『碣石調幽蘭第五』の解読研究などの史料として用いられてきた。

本稿では, 次のような結論に至った。1)吉川本の影印及び転写本との校合の結果, 彦根城本は吉川本の祖本である。更に, 2)江戸期の諸文献から後水尾本の紙背文書「秋風楽」の笛譜と歌詞に関する記録を抽出し, これを手がかりとして彦根城本の紙背文書を調査した結果, 彦根城本は『琴用指法』後水尾本と同定される。

彦根城本は中世以前の古写本と推定され, 現存する最古の琴の手法書である可能性が高い。今後, 彦根城本の詳しい書写年代等を含む基礎的問題が検討された後, 本書に拠って, 『琴用指法』のより詳細な内容が明らかになり, 琴の記譜法及び琴楽史に関して更に解明されることが期待される。